

一般社団法人香川県LPガス協会について

昭和41年10月より香川県LPガス保安協会として設立され、公益法人法の改正に伴い平成25年より、一般社団法人香川県LPガス協会となっています。一般社団法人香川県LPガス協会は香川県下全販売店の263販売所、38製造事業所及び移動業者等の正会員と賛助会員により312事業所により構成されています。

協会業務としては、高圧ガス保安法、液化石油ガス保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づきLPガスの保安の確保、および取引の適正化に関する指導等教育、育成に関する事業、高圧ガス保安協会香川県教育事務所として講習会の実施、高圧ガス試験事務所として高圧ガス国家試験の実施等を行っています。

そのほか、LPガス四国ブロック会議事務局、香川県高圧ガス防災協議会事務局として業務等も行っていきます。

また、「国民保護法」「新型インフルエンザ等対策特別措置法」等の指定地方公共機関として指定を受けての業務も行っていきます。

LPガス協会としての災害対策

○香川県と災害時防災協定の締結・平成19年10月13日

この協定は災害時等において避難所、病院等にLPガス及びガス器具を優先供給して火の通った温かい飲食物を供給します。

実際、LPガスは宮城県沖地震、阪神淡路大震災、新潟県中越地震においても活躍いたしました。また、災害時に戸別供給をしているため、災害復旧が早いということが最大の特徴でもあります。阪神淡路大震災で14日(都市ガス85日)、宮城県沖地震は3日(都市ガス31日)、東日本大震災においてライフラインのうちLPガスは41日、都市ガスは53日、電力は99日とLPガスはいち早く復旧しました。

○四国内の4県LPガス協会が災害時相互支援協定の締結・平成26年8月19日

この協定は災害時において四国管内の県を超えて物資、人員等を応援できる体制としています。

○LPガス販売店による応援要員の登録

LPガス販売店等資格者を応援要員として事前登録しておき、災害時等において販売系列を超えて点検等応援を行える体制としています。

○L P ガス販売店による緊急連絡網の設置

災害による消費者および販売店の被害状況、事業継続の可否等を把握するとともに、復旧時の応援要員の要請等を行える体制としています。

○会員による防災キットの保有

高松支部会員・香川クリーン協同組合による防災キットの配備。高松市内4ヵ所にガス発電機、炊飯器、煮炊き釜、給湯器をセットしたものを分散して配備。綾歌・仲多度支部会員においても同様保有している事業者があります。

○L P ガス販売店による緊急連絡網の設置

被害状況等の把握、復旧時の応援要員等の要請等を把握することを目的に整備。

○年に1度販売店ごとに貸出可能燃焼機器、供給設備の数の把握

災害時において避難所となるところにL P ガス器具等を設置する場合、交通網の遮断が考えられ、最寄りのガス販売店からL P ガス器具等を供給することが効率的であることから貸し出しできるガス器具、調整器、高圧ホース、低圧ホースの数等を確認しています。

○1年に1度販売店ごとに地域の消費者戸数を報告により把握

被災時に応援要員及び炊き出し機器等の配備のためL P ガス消費者戸数等の把握を行っています。

○協会支部6カ所に炊出ステーション等を配備(高松、坂出、丸亀、観音寺、津田、土庄)

大鍋、大鍋炊飯、L P ガス発電機、炊き出し用カップ、箸等を配備しています。

○避難所名簿の保有

避難所の名称、定員、使用燃料等を把握しており、避難所開設時のL P ガス供給設営の参考とするため名簿を保有。

○中核充填所の指定

平成26年度に災害時等に停電した場合においても避難所等へ優先供給できる中核充填所として6カ所の事業所が経済産業省の指定を受け、L P ガス優先供給体制を整備した。

○中核充填所6カ所に配備(高松市・三木町・坂出市・土庄町・東かがわ市・観音寺市)

大型煮炊きガマ(55ℓ)及び5升だき炊飯器を6カ所に配備。そのうえ、高松市、三木町については炊き出しステーション(炊飯、汁用コンロ及び鍋)を追加配備。

○調整器、ゴムホース等の配備

L P ガスの場合高圧ガスであることから燃焼に適した圧力に減圧する調整器、ガス器具までのゴムホース等が必要となることから、協会で単段式調整器40個、低圧ゴムホース150m、ホースバンド等を各中核充填所2カ所(高松市、土庄町)に配備。今後、すべての中核充填所に計画的に配備していきます。

中核充填所とは

中核充填所の設置の背景について

東日本大震災では停電したことにより、L P ガス充填所においてL P ガスを容器に詰めることができなくなる事態が多く発生し、通信設備も機能しなく、ガソリン等の燃料の不足等により大きな混乱をもたらしました。災害時においてそのような問題を解決するためにできたのが「中核充填所」です。

経済産業省は東日本大震災時においてL P ガスが避難所で活用され被災者の生活を支えたことから石油備蓄法により全国に中核充填所を指定して、災害発生時、停電になった場合でも発電設備、L P ガス車を備え避難所等へL P ガスを供給できる設備としています。

全国において342カ所(2018年12月現在)の充填所が経済産業省の指定を受け中核充填所として運用しています。

また、L P ガスは国家備蓄を行っており、全国5カ所において合計150万トン規模の備蓄基地の整備を完了し、ガスを備蓄しています。実際、東日本大震災時においては国家備蓄を活用し、被災者の生活を支えました。

○発電機の常設

L P ガスの発電機を設置しており、電力の供給がなくても独立してL P ガスの供給に必要な充填機が動かせます。また、**2か月に1回等**定期的に発電機を稼動して訓練を実施しています。



○L P ガスの充填設備とL P ガス車の保有

中核充填所にはL P ガス車を保有しており、ガソリン等の燃料を確保する必要はなく、自社で充填して避難所等へL P ガスを供給することができます。

東日本大震災では自動車用燃料としてガソリンが不足しましたが、タクシー等のL P ガス車は不足することなく被災者等の足として活用されました。



○衛星電話の保有

中核充填所では衛星電話を備えており、被災状況等を経済産業省、各県協会、中核充填所間で連絡を取り合い被災状況、応援要請等を行う体制を整備しています。



○地域連絡網整備

災害時石油供給連携計画により全国9地域としており、各地域においては経済産業省、経済産業局、各県協会、中核充填所、間の電話、FAX、メール等による連絡網を整備しています。

○訓練の実施

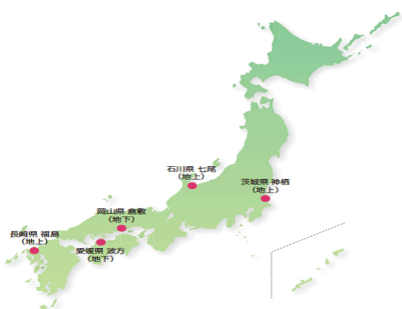
災害時石油供給連携計画による各地域の中核充填所及び各県協会が連携して、年に1度は連絡訓練を実施するほか、各県においてもLPガス供給訓練、炊き出し訓練、他社容器の充填訓練、発電機稼働訓練、衛星電話通話訓練等を実施して災害に備えています。



○国家備蓄放出時の優先供給基地

災害時等によりLPガスの国家備蓄の放出時において中核充填所は優先供給されることとな

っています。



○避難所にLPガスを優先供給します。

中核充填所は停電等の被害があってもLPガスをエネルギーとして発電、自動車燃料とすることにより、国、自治体からの要請にこたえ避難所等に優先供給を行なえる体制を取っています。



その他、LPガス協会では炊き出し訓練等にも協力しています。

○災害時炊出器具の保有

避難所となるところが都市ガスエリア等でLPガスを使用していない場合、被災者の人数が多かった場合、炊き出し器具をいつでも設置できるように保有し配備をしていたり、災害時に備え、汁用の器、おむすび用のラップ、お箸をも地域ごとに配備しているところもあります。



○炊き出し訓練に協力

炊き出しを行っていただく自治会、婦人団体等に協力して、LPガス機器を使用する際の豚汁、おむすびの作り方等をベテランの方から指導してもらうことにより、だれでもLPガス器具等が使用できるように慣れてもらうことを目的として炊き出し訓練等に協力しているところもあります。



LP（プロパン）ガス地震対策

○ マイコンメーターで地震が来ても大丈夫

LPガスメーターはすべてマイコンメーターとなっていますので、24時間お客様の安全使用等を確認して異常があればガスを遮断することにより屋内でガスを漏らしません。

- ① 使用中震度5相当の地震を感じるとガスを止めます。（対震遮断）
- ② 震によりガス配管の折損等で急激にガスが流れると異常と判断してガスを止めます。（最大流量オーバー遮断）
- ③ 帰操作時にガス漏れがあれば再遮断します。（安全復帰機能）

その他の安全機能

使用時間オーバー遮断、微小流量表示、圧力低下遮断、圧力異常表示、

○ 地震等になった場合

- ① 自分の身の安全を第一に考え避難して下さい。
- ② 地震後余震に備え容器バルブを閉めておくことより安全です。
- ③ 使用するときメータにより遮断されている場合は、ガス器具栓が全て閉じていることを確認して、容器を開けメーターのボタンを押して2分（現在は1分）待ってご使用下さい。
- ④ ご使用できないときはガス器具栓が開いていたり、配管等に漏れ等があれば再遮断しますので、ガス器具栓を閉になっているか確認して再度復帰操作をして2分間待ってご使用下さい。
- ⑤ 解除できない場合は、ガス販売店に連絡をとり点検調査を実施してもらって下さい。

LPガスはどのようなものなのか簡単に説明します。

LPガスの特性としては

- ・唯一液体で持ち運びができ、気化すると250倍になり、燃焼には2から9%空気と混合することで高カロリーを得ることができるエネルギー

- ・高カロリー 1立方当たり24000キロカロリー（約28キロワット）、都市ガス1立方当たり11000キロカロリー都市ガスの2.2倍
- ・空気の1.52倍と重いため滞留しやすい。
- ・無色、無臭ではあるが漏れたときにわかるようににおいを付けている
- ・1立方メートル燃焼するためには24立方メートルの新鮮な空気が必要なため吸気換気が必要。

安全性から見ると

LPガス容器の安全

皆さんご存じの容器(ボンベ)ですが、怖いイメージがあるのかもしれませんが、安全性耐圧試験圧力30キロ/平方cmの8/10約24キロで作動して破裂を防ぐ安全弁が取付けられています。また、5年に一度容器検査を行っており耐圧試験を実施して合格しないと使用できなくなっています。また、バルブ安全弁は容器検査時に新しいものと取り替えています。

高圧・低圧ホースの安全

100kgの引っ張り試験に合格したものを使用しているため安全

ガス器具の安全な使い方

1. 火がついたかどうか、必ず目で確かめて下さい。
2. いつも青い炎でお使い下さい。
3. 換気には十分気をつけて下さい。
4. ガス栓は全開で使用し、外出時就寝時には必ず閉めて下さい。
5. ガスコンロから離れるときは、火を消してから。
6. ガスコンロの目詰りは、ときどきブラシ等で掃除して下さい。
7. ゴム管はときどき点検し、2～3年を目安に取り替えましょう。

“ガスくさいと感じたら”

- ・ ガス販売店にすぐにお知らせ下さい。
- ・ 火気は絶対に使用しないで下さい。
- ・ 着火源となる裸火、換気扇、電灯などのスイッチに絶対に手を触れないで下さい。
- ・ 窓を大きく開けて、ガス栓やメータガス栓を閉めましょう

社団法人 香川県エルピーガス協会
高松市錦町1丁目6番8号（柳ビル）

電話 087-821-4401

香川県エルピーガスお客様相談所

電話 087-822-1226

離任のご挨拶

元 香川県危機管理総局長 土岐 敦史

令和2年4月の人事異動で、2年間お世話になった危機管理総局を離れることとなりました。在任中、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さんには大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

この2年を振り返ってみますと、まずは本県において、大きな人的被害が発生するような災害が発生しなかったことがなにより幸いでした。一方で、全国では、平成30年7月豪雨をはじめとする風水害や、北海道胆振東部地震など幾度もの災害が発生し、多くの方が尊い生命や財産を失いました。近年、風水害の激甚化が進んでおり、近い将来には南海トラフ地震の発生も懸念される中、「災害の少ない香川県」という言葉に安住することなく、県民全員で災害に備えることが、今こそ必要であると感じています。

私が着任して初めて実際に自主ぼうの皆さんの活動に接したのは、一昨年7月、倉敷市真備町へ災害ボランティアとして赴く皆さんのお見送りに行った際でした。早朝出発にもかかわらず、既に汗が噴き出るような猛暑の中でしたが、意気軒昂な皆さんのお姿に、各地域で頑張るこのような方達の存在が、本県の防災を支えているのだなと目の覚めるような思いでありました。

多くの県民の皆さんは、災害の発生を不安に思いつつ、忙しい日々の生活の中で、未だその備えに十分目を向けていないように思います。皆さん方の活動が、安政南海地震において住民を津波から守った「稲むらの火」の如く、地域住民の方々を災害から守る取り組みの旗となり、導いていかれますことを心から願っています。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会のますますのご発展と、会員各位のご健勝ご多幸を祈念して、ご挨拶いたします。ありがとうございました。



元 香川県危機管理総局 危機管理課長 石川 恵市

平成30年4月に危機管理課に配属となり、2年間、皆様方に大変お世話になりました。

この2年間も、全国各地で大規模な地震や風水害が相次いで発生し、甚大な被害をもたらしました。大規模災害が、いつ、どこで起こってもおかしくない状況であり、他人事ではなく、自分のこととして災害に備えることが本当に大切だと、改めて強く感じています。また、災害への備えは、日常の中で、身近なところで行わなければならないものだと感じています。

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様の取組みは、「共助」の要である自主防災組織の活動の活性化への支援を行うとともに、「防災」を通じたコミュニティづくりの一助となるものであります。さらには、災害への備えを、一人ひとりが、そして、地域で助け合いながら行っていく大切さを伝えていくものであり、長年にわたる皆様のご尽力に深く敬意を表します。

これからも、「自助」や「共助」の充実による災害に強い香川づくりに、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げ、私の転任のご挨拶といたします。

元 香川県危機管理総局 危機管理課 課長補佐 溝渕 哲生

この度の人事異動により、3年間勤務した危機管理課を離れることになりました。

特に、最初の2年間は、自主防災組織の担当課長補佐として、アドバイザー派遣やリーダー研修会などの県事業で大変お世話になり、ありがとうございました。

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方には、県内各地の防災訓練や研修会での熱心な活動をはじめ、平成30年7月豪雨の際には、猛暑の中、被災地へ復旧支援活動に行かれるなど、その行動力と強い使命感には、敬服いたしました。

「南海トラフ、いつでも来い！」岩崎会長から聞いた、この力強い言葉は今でも印象的に耳に残っています。また、木枯らしが吹く真冬の訓練の時にいただいた、豚汁の炊き出しがこの上なく、おいしかったことも思い出されます。

これからも、「共助」の要として、「災害に強い香川づくり」にご協力いただきますとともに、皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

元 香川県危機管理総局 危機管理課 主事 柴田 中

この度、4年間の危機管理課勤務を終え、異動することとなりました。

この4年間では、防災功労者内閣総理大臣表彰をはじめとした様々な表彰の機会など、多くの珍しい経験をさせていただきました。

また、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方には、フォローアップ事業やリーダー研修会、総合防災訓練、アドバイザー事業など多くの事業へ御支援をいただきました。至らないところも多々あったと存じますが、いつも快く御協力いただき、大変頼りにさせていただきました。

最後になりましたが、協議会のますますの御発展と、皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

元 香川県危機管理総局 危機管理課 主事 住瀬 棕亮

この度、3年間の危機管理課勤務を終え、異動することとなりました。

私は、危機管理課3年目にして、初めて自主防災組織担当となり、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様のお世話になりました。自主防災組織について、色々と勉強させていただくばかりの日々で、至らないところも多々あったと存じますが、岩崎会長をはじめ、かがわ自主ぼうの皆様から励ましやねぎらいの言葉をいただき、非常に頼りにさせていただきました。特に印象的だったのは、12月に実施した自主防災組織リーダー研修会で、かがわ自主ぼうの皆様と力を合わせてHUG訓練を実施させていただいたことです。大変でしたが、とてもいい経験になりました。最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会のますますの御発展と、会員の皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

今月の事務局だよりは、岩崎会長より原稿を頂きました。

人事異動シーズン

今月は人事異動シーズン、県庁の皆様をはじめ、市、町の皆さんも新しい仕事に赴くことになります。私は四国 4 県たまには東京への転勤がありました、単身で、家族で、いずれにせよ、引越しを行なったり、知らない土地に行くというプレッシャーがありました。現役の若い人に参考になればと思い、私(岩崎)がこのシーズンどのような事に気を使っていたのか、思い出しながら書いてみたい。

1. まず内示がでると
 - ・赴任先の部長、課長によろしく願いますとのご挨拶の電話を入れる。
 - ・厚生庶務担当殿にも電話で挨拶、宿舍の状況把握を行なう
 - ・自宅へ電話し、家族に赴任先と宿舍の状況を連絡し協力要請
2. 辞令交付後
 - ・職場の皆さんにお礼の挨拶回り ・食堂売店の皆さんにも挨拶回り
 - ・仕事上関係している官庁、企業への挨拶回り
3. イザ赴任地へ
 - ・旅行カバンには1週間分の着替え ・カゼ薬、胃腸薬 ・チョットした手みやげ
4. 着任すると
 - ・挨拶回りは元気よく丁寧に、所属課以外関連の大きい部門への挨拶もしっかりと行なう
 - ・仕事の引き継ぎ
仕事の中味も大切だが、関係する部門と担当名はしっかりと確認する
 - ・所属先の共通事務を担う人への心づかいは忘れないこと
5. 着任して1~2週間
 - ・所属部門への着信電話には率先して対応する
 - ・電話内容をキチンとメモして、関係者へ手渡す
 - ・職場ではスキを見せない、少しキツイ状態になると、気分転換のため、ビルの中を散策する

以上の点などを、心にきざみ、人事異動に対処していました。

編集後記

4月の防災減災の輪は、社団法人 香川県エルピーガス協会様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。